

医療経営に携わるMBAの役割



兵庫医療大学 看護学部 准教授 青木 菜穂子

私は、2007年まで医療・看護の現場でマネジメントをする立場にあり、経営について経験とともに学ぶ機会もたびたびありました。しかし医療経営がこれまでの経験則による実践では行き詰まりになっていることや、「何をどうするか」は伝えられるものの「なぜそうするのか」を的確に伝えることができないことにジレンマを感じていました。その時、関学IBAの存在を知り入学を決めました。IBAの経営戦略研究科では、経済学や経営学を体系的に学びました。教授陣からは、営利・非営利を問わず倫理観と責任を持って社会に役立つ経営を考える英知を得ました。IBAを修了しMBAの学位を得て、今は各地で医療・介護現場の管理職者やスタッフを対象に講義・講演を行っています。求められるテーマは「医療・看護経済」「組織行動論」「人的資源管理論」「看護政策論」「サービスマーケティング」「コンフリクトマネジメント」「看護倫理」など多岐にわたります。また、市立病院と県立病院の経営改革審議会や評価委員会の委員を務めています。

こういった医療経営に関する講義や委員の需要がある背景には、医療経営が全国的に危機的状態におかれていることにあります。医療は「生命」を扱うがゆえに多くの規制や制約が存在し企業のように市場メカニズムが働かない特徴があります。それゆえ、これまでの医療経営は専門書やセミナー参加などにより実務的な知識において実践され、経営学の視点から考えるという意識はあまりなかったといえます。

しかしこの数年、医療を取り巻く環境は激変し、病院が存続するためには病院の環境や競合を分析し、病院のミッション、ビジョン、存在価値の見直しを図り、戦略の再考、ニーズに見合った病床規模の適正化や他の医療機関との連携など、これまでの慣例を脱して新たな価値を創造する経営マインドをもった改革が必要となっています。

医療経営にMBAが携わるメリットは、医療特有の状況や背景を理解して経営学の知識を応用しながら多くの事象から真の課題を可視化し、地域のニーズと経営理念をベースにして経営改革や地域医療に貢献できることにあります。医療経営に携わる場の依頼が増えている現状は、医療関係者が経営学のエッセンスを求めている表れでもあり、今後も経験と学びをもって社会に貢献できるよう努力したいと思っています。